

# いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



6月号 発行 平成28年6月30日

## 森林（もり）とのきづなづくり 植樹リレー スタート！

6月18日（土）、第44回いわき市植樹祭において、「森林（もり）とのきづなづくり植樹リレー」のスタート式が開催されました。

このリレーは、平成30年春に南相馬市で開催される第69回全国植樹祭に向けて、多くの県民の皆様により森林（もり）を守り育て、未来へ引き継いでいくため、県内各地で開催される植樹活動を結んでいくものです。

式では、畠利行副知事から斎藤卓夫県森林・林業・緑化協会長へ、そして清水敏男いわき市長に県の地図を形どったプレートが手渡され、市長がいわき市の場所に緑のピンを差して、植樹リレーがスタートしました。

今後は4つのコースに分かれ、プレートとバトンを引き継ぎ、各地で行われる植樹活動を結んでいきます。また、植樹祭の参加者には木製の短冊に「森林（もり）づくりの思い」や「復興を願う気持ち」等を書いていたきました。

皆さんの思いを乗せた短冊は、植樹リレーのゴールとなる平成30年の全国植樹祭式典会場に展示されることになっています。



(植樹リレーがスタートしました)



(短冊に思いを寄せて)

(森林林業部)

## カツオ初水揚げ（小名浜）

6月6日（月）に小名浜魚市場において、今期初のカツオの水揚げがありました。水揚げは、小名港所属の巻き網運搬船第33寿和丸によるもので、ビンナガ（マグロの一種）55トンのほか、カツオ8.7トンが水揚げされました。県内でのカツオ水揚げは今期初めで、前年よりも半月ほど遅い水揚げでした。

震災後、いち早く水揚げが再開されたカツオですが、水揚量は200トン程度に留まっています。震災以前は、県内トップの水揚量（9,453トン）と金額（23億1200万円）を誇っていた魚種ですので、早急な水揚げの回復が待たれます。



(ビンナガとカツオの水揚げ)

(水産事務所)



## 試験操業の状況

### 【ウニの貝焼き初出荷】

5月19日（木）に、試験操業で漁獲したウニを用いた貝焼きの製造・出荷が行われました。貝焼きは、ほっき貝の殻にウニの身を盛り付けて蒸し焼きにしたいわき地区の名産品です。この日は約15kgのウニを加工した貝焼き36個がいわき仲買組合に引き渡され、いわき中央卸売市場で入札にかけられました。

入札では、貝焼き1個あたりの価格は、3,300～5,600円と、震災前のおよそ2～4倍高値となりました。6月3日（金）には小名浜を訪れ貝焼きを試食された安倍首相から“大変美味しい”とのコメントをいただき、今後の試験操業の拡大に弾みがつくことが期待されます。



（焼き上がった貝焼き）

### 【ホッキ貝桁網の初漁】

6月にホッキ貝桁網漁が解禁となり、1日（水）にいわき市漁協四倉支所所属の1隻、2日（木）に四倉・久之浜・沼之内支所所属の4隻が出漁し、合計1,690kgの水揚げがありました。

昨年の漁期には、1日あたり各支所で400kgの水揚げ制限がありましたが、今期から数量制限を撤廃したため、昨年同時期の915kgを大幅に上回りました。

水揚げされたホッキ貝は5kgずつ箱詰めされた後、福島、郡山、いわき、東京、茨城の各市場に出荷され、前年度並みの平均350～400円/kgの単価で取引されました。



（小名浜魚市場におけるホッキの水揚げ風景）  
（水産事務所）

## 草野小学校で「田んぼの学校」が始まりました！

5月20日（金）、「田んぼの学校」が開校され、いわき市立草野小学校と福島県立龔学校平分校の5年生児童合計86名が田植えに挑戦しました。

田んぼの学校は、県の「ふくしまの農育推進事業」により、地域の未来を担う子どもたちが、『農業・農村地域の大切さ』や『環境の大切さ』、『食・命の大切さ』について理解し、豊かな感性を育むことなどを目的とした体験型学習です。

草野小学校では総合学習の一環として、26年間地元農家やPTA会員らと農業体験学習に取り組んでいます。昨年度から田んぼの学校事業と連携しており、活動をPRし、農業の大切さや収穫の喜びを味わってもらうこととしています。

今年度第1回目の活動は、もち米（ときめきもち）の田植えでした。地元農家の富岡正治（とみおかまさはる）さんから苗の植え方について説明があり、児童たちは真剣に耳を傾けていました。初めて水田に入る児童も多く、初めは恐る恐る植えていましたが、地元農家の方による手厚い指導により、夢中になりながら田植えを楽しんでいました。

今回植えた苗から収穫したもち米は活動最後の「収穫祭」で使用し、地域の方を交えて餅つきを行う予定です。

6月中旬には「田んぼの生き物調査」が予定されており、児童たちは、次回の活動も心待ちにしているようでした。



（富岡さんによる田植えの説明）



（このあたりに植えるんだよ）  
（農村整備部）

## いわき地方畜産経営基盤強化 推進協議会を開催しました。

5月20日（金）、県いわき合同庁舎において、いわき地方畜産経営基盤強化推進協議会を開催しました。

原発事故から5年が経過し、放射性物質に汚染された農業系廃棄物の一時隔離、モニタリング管理、飼養管理の徹底に取り組んでおりますが、本県産畜産物に対する風評は依然として続いております。

会議では、畜産経営の基盤強化に向けて、畜産クラスターをはじめとする支援事業の推進のほか、草地の除染推進や稲ホールクoppサイレージの利用拡大、大規模畜産経営体における滞留堆肥の利用推進、除染農用地における営農再開について、今後も関係機関・団体等が連携し、取り組んで行くことを確認しました。



（合同庁舎内での会議風景）  
（農業振興普及部）

## 「苗木のホームステイ」の 参加者を募集しています

県では、平成30年に開催する「第69回全国植樹祭」で植栽する苗木を、県内の家庭や企業等で育てていただく「苗木のホームステイ」、苗木の育成に御協力いただけるボランティアの方を募集しています。

### 1 参加の対象

- 県内にお住まいの個人、企業等の法人または団体
- 平成30年春まで苗木を大切に育成できる方
- 苗木の回収時に指定場所（農林事務所等）まで運搬していただける方

- 2 配布される苗木  
アカマツ・クロマツの苗木（個人：計20本、法人又は団体：計30本）は宅配便等により平成28年10月ごろから配布されます（苗木はポットに植えた状態で、約10～15cm程度）。

### 3 苗木のホームステイの流れ

- 平成28年6月～7月29日  
参加申込みの受付
- 平成28年10月頃～  
苗木が届き、育苗スタート（水やり）
- 平成30年4～5月  
農林事務所等指定場所に持参
- 平成30年春  
全国植樹祭で植樹

### 4 参加申込み及び問合せ先

参加申込書を郵送、FAX又は持参により平成28年7月29日（金）までに下記申込み先に提出してください。申込書は当事務所で配布しているほか、福島県全国植樹祭推進室HP

(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055e/homestay.html>)からもダウンロードできます。

申込み及び問合せ先：いわき農林事務所  
森林林業部林業課 電話0246-24-6193



（配布されるコンテナ苗のイメージ）  
（森林林業部）



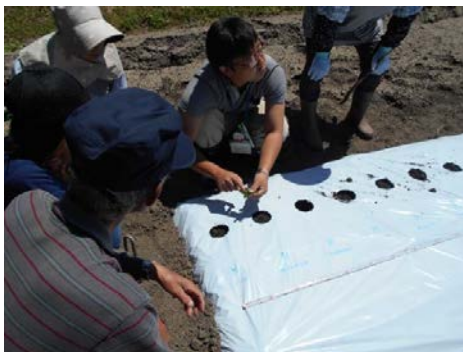
## 川前地区においてリンドウの定植が始まりました！！

6月3日（金）、川前地区において、今年度からリンドウ栽培を始める生産者5戸を対象として、JA職員を交えた苗の定植指導会を開催しました。

栽培ほ場には営農再開する水田も含まれており、このリンドウ栽培には地域活性化への期待も込められています。

指導会では、実際に定植を行いながら、定植の深さやかん水、抑草対策等について、説明しました。参加した生産者は全員が初めての経験であるため、指導会の前は不安を抱えていましたが、指導会後には「早速帰って植えよう！」と意気込む姿を見ることができました。

今回定植されたリンドウは、来年の夏から収穫が始まり、平成30年には本格的な出荷となる見込みです。標高が高く昼夜の温度差が大きい川前地区の特性を生かして、鮮やかに色づく品質の良いリンドウの生産を目指し、今後も継続的に支援をしていきます。



（生産者との定植作業その1）



（生産者との定植作業その2）  
（農業振興普及部）



## 松くい虫被害対策に取り組んでいます！

6月6日（月）から22日（水）まで、松くい虫被害拡大を未然に防止する目的で、いわき市が「勿来」、「四倉・大久」、「小名浜」、「新舞子」の4地区の民有林約185haにおいて、ヘリコプターやスパウダーによる薬剤散布を行いました。

マツは、他の樹木が生育しない痩せ地や海岸にも生育することから、土砂の流出や潮害などから住宅や農地を守るといった国土保全機能を有しています。また、木材やきのこといった林産物の生産、白砂青松や街道のマツ並木など伝統ある景観を保全する重要な働きも担っています。

しかし、マツを枯らす松くい虫被害は昭和50年代より発生・拡大しており、現在ではいわき農林事務所管内においても被害が確認されています。

このため、「保全松林（将来にわたって健全な松林として維持していく松林）」を守ることを目的に、県といわき市が連携して被害対策を実施しております。

このほか、松くい虫被害木を伐採し、薬剤によるくん蒸処理を行う「伐倒駆除」を春（5月～6月）及び秋（10月～2月）に実施し、被害の拡大防止に取り組んでいます。

いずれも、いわき市の重要な景観である海岸や公園等のマツ林を松くい虫被害から守るための取り組みですので、皆様の御理解と御協力をお願いします。



（ヘリコプターによる散布作業（勿来地区））



（スパウダーによる散布作業（小名浜地区））  
（森林林業部）

## 福島県学校農業クラブ連盟 意見・研究発表大会開催される

6月16日（木）、17日（金）の両日、いわき市勿来市民会館錦公民館を会場に、福島県学校農業クラブ連盟の主催による福島県学校農業クラブ連盟意見・研究発表大会が開催されました。大会では7部門に計45題エントリーされ、農業技術開発、地元生産物を使った加工品開発、地域の環境問題等のプロジェクト課題や意見が発表されました。

プロジェクト発表分野Ⅱ類で最優秀賞に輝いた磐城農業高等学校では、いわき市産のナシを原料としたジャムの開発に取り組んできましたが、今回の発表は、これまで廃棄していたナシの芯を使用した濃縮ドリンク「梨酢」の開発により、原材料を余すことなく利用したものです。加工技術の安定化、マーケティングによる購買層の明確化、ラベル・容器の選定といった一連の過程についても、プロジェクトや発表方法の工夫が見られました。

表彰式では各分野の最優秀賞が決まり、最優秀賞を受賞した団体、個人は8月に岩手県で開催される東北大会に出場します。

磐城農業高等学校には、東北大会での活躍が期待されます。



(高校生による成果発表)



(大会を締めくくる表彰式)  
(農業振興普及部)

## 「第1回ふれあい農業講座苗植会」を 開催しました！！

6月1日（水）、いわき市立渡辺保育所において、いわき農業青年クラブ連絡協議会主催による、「第1回ふれあい農業講座 苗植会」が開催されました。

本講座は、園児達に農業や農作物を身近に感じてもらうために毎年開催しており、今回は園児48名が、ピーマン、パプリカ、キュウリ、サツマイモ、トウモロコシ、ズッキーニの苗の定植を行いました。

クラブ員が園児達に野菜の苗を見せると、「これ何の野菜？」「ピーマンの葉っぱはこんな形をしているんだね！」と好奇心溢れる声が上がりました。また、野菜に関するクイズでパプリカに黒色があることを説明すると、「黒いパプリカがあることは知らなかった」とパプリカの色の種類が豊富であることに驚いていました。

園児達との交流にクラブ員は、園児達の喜ぶ様子を見て、「野菜の定植をきっかけに、より多くの園児に野菜に興味をもってほしい。」と話していました。



(苗の定植の様子)



(野菜クイズ！分かるかな？)  
(農業振興普及部)

**いわき地方の農林水産物  
モニタリング検査結果**

**農林畜産物の検査結果**

福島県が行った、いわき地方の5月の農林畜産物の放射性物質モニタリング検査結果（表1）をお知らせします。

（表1）農林水産物の検査結果（5月末現在）

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数			計
10品目	1品目(もみじがさ(しどけ))			11品目
	検出下限値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超で検出された検体	
21検体	1検体	1検体(9.7ベクレル/kg)	0検体	23検体

検査した11品目23検体のうち、10品目21検体において、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。

内訳は（表2）のとおりです。

（表2）放射性セシウムが1点も検出されなかった品目と検体数

うど（野生）3、菌床しいたけ（施設）3、菌床なめこ（施設）2、くさそてつ（こごみ）（野生）2、うわばみそう（野生）1、ふき（野生）1、葉ネギ（施設）1、コマツナ 1、牛肉 2、原乳 5

なお、もみじがさ（しどけ）については、1検体に100ベクレル/kg以下の放射性セシウムが検出されました。

5月末現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、（表3）のとおりです。

（表3）出荷制限及び出荷自粛品目（5月末現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限 (7品目)	野菜、根菜、芋類	—
	果物	—
	穀類	—
	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る)、わらび、こしあぶら
きのこ	畜産物	原木なめこ(露地)、野生きのこ
	山菜	—
出荷自粛 (1品目)	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

（企画部）

**海産魚介類の検査結果**

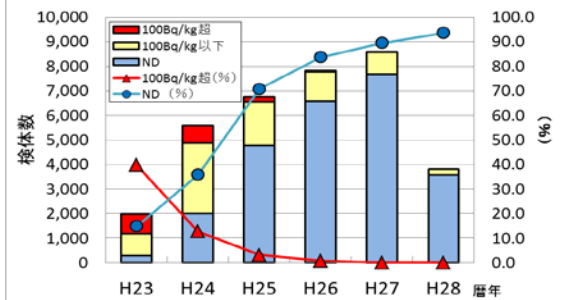
○ 福島県沖で採取された海産魚介類の放射性セシウム濃度は、時間の経過とともに着実に低下しています。

平成28年5月に放射性セシウムの食品としての基準値100ベクレル/kgを超えたものではありませんでした。なお、海産魚介類では平成27年4月以降、基準値100ベクレル/kgを超えたものではありません。

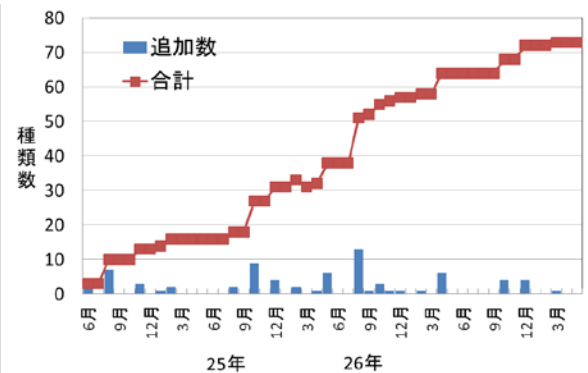
○ 平成27年7月以降、モニタリング検査で放射性セシウムの不検出割合が9割を超えています。現在は安全性が確認されている魚介類73種類について試験操業が行われています。

年		100Bq/kg超	100Bq/kg以下	不検出	計
		検体数	785		
H23	割合(%)	39.8	45.3	14.9	100.0
H24	検体数	921	2,372	2,287	5,580
	割合(%)	16.5	42.5	41.0	100.0
H25	検体数	280	2,147	5,214	7,641
	割合(%)	3.7	28.1	68.2	100.0
H26	検体数	75	1,387	7,260	8,722
	割合(%)	0.9	15.9	83.2	100.0
H27	検体数	4	896	7,677	8,577
	割合(%)	0.05	10.4	89.5	100.0
H28	検体数	0	244	3,568	3,812
	割合(%)	0.00	6.4	93.6	130.5
計	検体数	2,065	7,939	26,300	36,304
	割合(%)	5.8	22.4	74.3	102.5

H28.5.31現在



**試験操業対象種の推移**



（水産事務所）



いわきの情報をお知らせします！



### 福島県いわき農林事務所

いわき市平字梅本15番地(福島県いわき合同庁舎3F)  
TEL.0246-24-6197 FAX.0246-24-6196

mail kikaku.af07@pref.fukushima.lg.jp  
http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/

Q いわき農林事務所

検索

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に  
掲載された6次化商品をご紹介します！ vol.2

今回も先月号に引き続き、「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」(平成28年3月版)に掲載されている商品の中から、食処くさの根(株)の「特製ドレッシングギフトボックス」をご紹介します。

「特製ドレッシングギフトボックス」は、福島県産黒じゅうねん(エゴマ)を使用した「黒じゅうねんドレッシング」と、兵庫県産ゆずを使用した「完熟ゆずまるごとドレッシング」の二本セットです。

食処くさの根(株)の新谷社長は「元々、地元の魚を加工した商品をつくろうと考えていたが、震災のため断念しました。その代わりに、福島県産の美味しい伝統野菜を使用した商品を開発したい。」との思いから、県産の黒じゅうねんを使用したドレッシングをつくりました。開発にあたっては、食堂のお客様に試食してもらい、黒じゅうねんの風味や香りを生かすよう試作を繰り返したそうです。

今年の夏頃からはインターネット販売の開始も予定されています。是非ご賞味ください。



#### 食処くさの根(株)

いわき市四倉町字東2丁目167-1  
TEL:0246-32-6460  
FAX:0246-32-6460  
Web:http://kusanone.net/  
Mail:kusanone@aioros.ocn.ne.jp

【販売箇所】  
くさの根(本店価格1,300円)  
インターネット販売※夏頃から販売開始予定

### いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報

- (1) モニタリング情報検索
- (2) 出荷制限等一覧表

「東日本大震災」  
及び「原発事故」からの  
復興のために！



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。  
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース 検索